

大分大学の GXビジネス教室



「働きやすさ」と「働きがい」

マイナビの「大学生就職意識調査」によると、最近の学生の企業選択ポイント第1位は「安定している会社」。安定性とは福利厚生充実や、安心して働ける環境かどうか。ノルマがきつかったり、暗い雰囲気だったり、転勤が多かったりすると敬遠される。就職観は「楽しく働きたい」。一方、ゆるすぎる職場に若手社員が定着しないという調査結果もある（リクルートワークス研究所調査）。

やらされ仕事ではなく、働く満足度を高めるには、動機付け（やりがいや達成感）が不可欠である。こうした「働きがい」は、組織から必要とされている、社会に役に立っているという認識が変わる。

楽ではないが、きつい仕事もやり遂げられる。

昨年末、パッケージの企画・製造・販売を手がける丸東産業（福岡県小郡市）で講話の機会をいただいた。稚拙な内容にもかかわらず、聴講姿勢は真剣そのもの。働きやすい一方、会社の方向性や社長の思いを共有し、新しいアイデアに基づく共創も始まろうとしている。実力のある女性には活躍してほしいとも。とても理想的な会社だと思う。

ゼミ生たちが「働きやすさと働きがいを探る」をテーマに、大分のものづくり企業の社長や社員を取材。内容を企業PR動画としてまとめた。大分合同新聞社がつな

いでくれた縁で昨年夏から、ものづくり支援などを手がけるテクトレージ（本社・横浜市）の「中小企業GOTCHA（ガッチャ）」に参加。大分にある同社のオフィスから、全面的な支援を受けた。学生目線で、大分の企業の素晴らしさを社会に広めようとしている。

今回は長尾製作所（佐伯市）、明大工業（別府市）、農事組合法人グリーン法人中野（豊後大野市）、豊洋精工（国東市）に協力いただいた。その様子は専用サイト（<https://chusho-gotcha.com/>）にある。もともと知名度のある組織ではあるが、自分事として取り組んだ成果が、新年早々、形になってくれるのはありがたい。



渡辺博子（わたなべ・ひろこ） 大分大経済学部社会イノベーション学科教授。専門は産業経済論。研究所、大学勤務を経て2017年度より現職。1965年生まれ、大分市出身。